

## 吃音はなおるの？

残念ながら現在のところ、吃音には確立された治療法はありません。スラスラと話せるようになる子どももいれば、吃音が続く子どももいます。

目の前の子どもが、どちらになるかを正確に予測することはできません。しかし、どちらの子どもにとっても、以下のことは大きな支援になります。

- 子どもが安心してゆったりと生活できるよう周囲の環境を整えること
- 子どもの自信を育てていくこと

## どうすればいいの？

クラスにどもる子どもがいたら、担任の先生は、その子にどのように接すればよいか悩まれることと思います。このようなときには、このリーフレットの見開きの内容を参考にしてください。

また、子どもや保護者が吃音を気にしている場合や、子どもが話すときにつまづいて苦しそうな場合、もがくような動きが頻繁に見られる場合には、ことばの専門家（言語聴覚士やことばの教室の先生）に相談してみてください。

## 吃音についての豆知識

- 人口の約1%の人に吃音があるとされています。男の子に多いようです。
- 大部分の子が2～5歳にどもり始めます。
- 症状に波（変動性）があり、調子が良い時もあるが悪い時もあります。ある特定のことばや場面が極端に苦手ということもあります。
- ★ 教師や弁護士、アナウンサーなど、話すことの多い職業で活躍する人もたくさんいます。

## おすすめの本

- ① 絵本『どもってもいいんだよ』
- ② 絵本『どもるってどんなこと』
- ③ リーフレット吃音相談シリーズ・幼児編『うちの子はどもっているの？』  
上記3点(①②各1000円、③10部150円)  
ことばの臨床教育研究会編



- ④ 『もしお子さんがどもったら』 長澤泰子訳
- ⑤ 『子どものどもりQ&A』 長澤泰子・中村勝則訳  
上記2点(各400円) NPO法人全国ことばを育む会発行

上記5点は、全国言友会連絡協議会のホームページで購入できます。

- ⑥ 『子どもがどもっていると感したら』 (税込1575円) 廣島忍・堀彰人 編著 大月書店
- ⑦ 『キラキラ どもる子どものものがたり』 (税込1470円) 堅田利明 著 海風社

⑥⑦は一般の書店やインターネット販売で取り寄せることができます。

～どもる仲間のセルフヘルプ・グループ～  
NPO法人 全国言友会連絡協議会

◆ ホームページ ◆

<http://www2m.biglobe.ne.jp/~genyukai/>  
※このリーフレットは、上記から無料でダウンロードできます。

◆ 電子メール ◆

[genyukai@mua.biglobe.ne.jp](mailto:genyukai@mua.biglobe.ne.jp)

電話 03-3942-9436

FAX 03-3942-9438

平成20年7月1日発行(初版)

## 吃音相談シリーズ・学童編

# どもる子どもが クラスにいたら

学校の先生方へ



ことばの臨床教育研究会 編  
NPO法人 全国言友会連絡協議会

## きつおん 吃音とは？

ことばがどもることを<sup>きつおん</sup>吃音といいます。主な症状には、次の3つがあります。

- ことばの一部をくり返す  
(例：「ほ、ほ、ほ、ほく」)
- 引き伸ばす  
(例：「き—— のうね」)
- つまる  
(例：「・・・ったまご」)

他に、ことばにつまったときに、何とかことばを出そうとして力が入ってしまったり、頭や手足などを動かしたりすること(随伴症状)があります。子どもが大きくなってくると、どもることを恥ずかしく思ったり、どもりたくないために言いにくいことばや話す場面を避けたりするようになることもあります。どもることに対する恐怖心から消極的になったり、人を避けたりするようになることもあります。

吃音は単なることばの問題ではなく、個人にとって深刻な問題になる可能性があり、なおざりにしてよいものではありません。

## なぜ、どもるの？

吃音の原因については、百年近く様々な研究が行なわれてきています。しかし、いまだにはっきりとした原因は分かっていません。ただ、性格や育て方が吃音の原因でないことは分かっています。

現在、吃音は、子どものどもりやすい体質と周囲の環境とがかわり合って、ことばの発達が発達期に生じると考えられています。



吃音がある子に、  
どう接したら  
いいのでしょうか？

吃音があろうとなかろうと、  
同じじゃよ。その子の良さを認め  
続けて、自信を育てることじゃよ。  
そうすれば、どもることを気にする  
ことなく、元気に学校生活を送れる  
ようになるものじゃ。

普段から **せかさずに、ゆったりと  
かわり、先生がゆっくり話す**  
ことも大切なんじゃよ。

からかいにあつたら、  
どうすればいいのですか？

ただ、「なんでどもるの？」  
という素朴な疑問をもつ子どもも  
いるじゃろう。そんなときは、  
次のような話をするとい。

**「許すな！」**の一言じゃ。  
からかいははじめにつながる  
ことがあるぞ。からかわれる  
ことで吃音がひどくなってし  
まうこともあるしな。

- わざとやっているわけではない。
- 原因は分からない。
- つかえるときとつかえないときがある。
- ★途中で口を挟まず、最後まで話を聞こう。

授業中は、どうしたら  
いいんでしょう？

どもっていても、最後まで聞くことじゃ。  
「落ち着いて！」とか「ゆっくり！」とかは  
言わない方がいいぞ。先生もまわりも、  
**「どもってもいいんだよ」と**  
思うことが大切なんじゃよ。

## 対応のヒント

- 順番に指された方が話しやすい子もいれば、急に指された方が楽に話せる子もいます。指名の仕方について子どもと話し合ってみてください。
- 多くの子どもが、誰かと声をそろえて言う話しやすくなるものです。ペアで音読したり台詞を言ったりする工夫も考えられます。ただし、「その子だけをペアで発言させる」ということは避けましょう。
- どうしても言いにくいとき、「今は指さないで」というサインを先生と話し合っ決めて子どももいます。

スラスラ話せたとしても、  
話し方をほめるのではなくて、  
発表の内容やその意欲をほめるんじゃ。  
どうすれば楽に発表ができるのかは、  
子ども一人一人によって違うんじゃよ。  
その子と **話し合う** ことじゃよ。

吃音がある  
子どもたちは、  
こんなことを  
言っとるよ。

指されて…

答えがわかっていても、  
ことばが出ないから、  
わかりません、って  
言ったこともある…。

先生と話し合えるといいなと思う。  
「どうだい？」「こういうとき、どうし  
てほしい？」とかって、気楽に聞いてく  
れると助かるかも…。

子どもの思いに  
耳を傾けるのが一番！  
ということですね